

第18回さらしなの里 「縄文まつり」 児童会テーマ 縄文人になりきってまつりを盛り上げよう

昨年は新型インフルエンザの流行防止のためやむなく中止となり、本年も台風14号の接近で開催が危ぶまれた「縄文まつり」が2年ぶりに盛大に開催することができました。

子ども達は、縄文の時代から人々が暮らしていた、豊かな恵をもたらしてくれるこの更級の地を誇りに感じ、地域の皆さんとともに縄文まつりを創り上げることを通して、人と人が繋がる良さ、それができる更級の素晴らしさを実感したのではないかと思います。子ども達を支えて下さった地域の皆様、保護者の皆様ありがとうございました。



6年生の鼓笛隊の演奏によりいよいよ2年ぶりの「縄文まつり」の開幕です。火起こしは5年生の役目、雨上がりの湿り気の多い中でしたが、見事に着火しました。



豊穰儀礼ではまず5年生が川や森の恵を、1年生が自分たちで作ったエゴマクッキー、4年生が自分たちで切った木を使って焼いた炭を奉納しました。



1・2年生も縄文人になりきって楽しみました。大人の縄文人もかなりノリノリ！



5・6年生は
様々な係に分
かれてスタッ
フとしても大
活躍！



3年生は手作りのゲームコー
ナーで、4年生は縄文芸能村でオリ
ジナルの劇を発表し、それぞ
れにおまつりを盛り上げてくれま
した。
本当の縄文人たちはどんなこと
をして楽しんでいたのでしょうか。



6年生の「ジャンベ」、5年生の「円光房縄文太鼓」は練習の成果が十分発揮された、素晴らしい
演奏でした。
責任を持って役割を分担すること。大勢の前で堂々と楽しく発表できること。ルールを守って行
動することなど、多くのことを学ぶことのできた「縄文まつり」でした。